

# 「学校内外の学びをつなぐ(1)」について

## On Organized Session “Connecting the learning inside and outside schools (1)”

白水 始<sup>†</sup>  
Hajime Shirouzu

<sup>†</sup> 東京大学  
The University of Tokyo  
shirouzu@coref.u-tokyo.ac.jp

本オーガナイズド・セッションの趣旨について、一言説明しておく。

本セッションは、「認知科学」誌上の23巻3号特集「学校内外の学びをつなぐ」(2016年9月発行)を基に、特集への掲載が決まっている二人の若手研究者の論文を材料として、「学校内外の学びをつなぐにはどうすればよいのか」、「それを学術論文として有意義な形で発表していくにはどうすればよいのか」という二つのテーマについて、対面でインタラクティブな議論を引き起こすことを目的としている。

セッションの狙いをOSへのCall for Paperから再掲しておく。

「ICTやデータサイエンスの力で、学校でのフォーマルな学習と学校外でのインフォーマルな学習をシームレスに支援・評価する世界が実現されつつある。学校内でも、毎日の授業に見られる子供同士の会話や子供と教師のやり取りなど相互行為を可視化・数量化し、授業改善につなげる試みも始まっている。しかし、テクノロジーが力を増したこの世界で私たちがいかなる教育を行いたいのか、学校の中だけでも多様で複雑な子供たちの学びの過程を、さらに学校の外といかにつなぐのかについては十分に検討されていない。またはそもそも、学校の内/外、もしくはフォーマル/インフォーマルといったような二元論的な学習の捉え方自体が、この議論を停滞させる要因のひとつになっているのかもしれない。本セッションでは、学校内外の学びを広く対象として、学習科学や行動科学、データサイエンス、状況論的アプローチ、認知論的アプローチなど学問分野や手法を問わず、学校内外の学びをいかにつなげるか、人の一生に亘る学習をいかに支えるかに資する研究を集め、私たちがこの先、テクノロジーの力を使いこなして、どのような世界を創り出していくべきかの議論を交わす機会としたい。」

この狙いを実現するため、本セッションの構成は次の通りを予定している。

- イントロダクション (白水)
- 齊藤萌木氏論文「説明モデルの精緻化を支える社会的建設的相互作用」の本人による紹介
  - 宮崎清孝・村山功氏による論文への感想・コメント、今後への期待
  - 齊藤氏との議論
- 飯窪真也氏論文「教師の前向きな学びを支えるデザイン研究」の本人による紹介
  - 山住勝広・村山功氏による論文への感想・コメント、今後への期待
  - 飯窪氏との議論
- 上記全員をパネリストとしてフロアの皆様と議論

構成の趣旨は、齊藤・飯窪氏の論文について、初稿段階から詳しく読み込んで議論して下さった方を招いて、「学校内外の学びをつなぐ」といった高度に実践的な研究内容を論文にしていくというプロセスはどうあるべきかについても議論するものとなっている。その助けとなるよう、本イントロに続く、齊藤・飯窪両氏の論文は、上記雑誌論文の「議論のしどころ」を中心とした要約を依頼した。詳細は雑誌を御覧になっていただきたい。

また、本セッションは、SIG DEE (教育環境のデザイン分科会) の協力を得て実施される。上記の狙いに含まれる「二元論的な学習の捉え方自体」に対する疑問も、全体の議論を通して浮上すれば面白い。

なお、このセッションはオーガナイズド・セッション「学校内外の学びをつなぐ(2):ラウンドテーブル」との連動企画であるため、上記のセッションの在り方をひな形として、同時並行的にラウンドテーブルで議論が深まることを期待したい。